

# 平成28年度学校経営計画表

## 1 学校の現況(平成28年5月1日現在)

学校番号		学校名	水城高等学校		課程	全日制	学校長名	山野 隆夫		副校長名	稲葉 節生	
教頭名	鈴木 力		安達 忠夫		富岡 善美	事務局長名	小田部 幹夫	校長補佐名	田村 浩行	事務長名	鈴木 利久	
教職員数	教諭67	養護 1 教諭	常勤 17 講師	非常勤 講師31	実習教諭0 実習講師0 実習助手0			事務職員 9	技術職員1	計 134		
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス		
		男	女	男	女	男	女	男	女	1907		
	普通科	447	296	363	293	285	223	1095	812			

## 2 目指す学校像

○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用できる人材育成を目指す。
○学業と部活動の両立を目指し、活力ある学校を目指す。
○各自の個性・能力をさまざまな場で表現できる、コミュニケーション能力の高い人材の育成を目指す。
○健全な道徳観を有し、友愛の情を育み他人と協調し、社会に貢献できる人材を育成する。

## 3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習・進路指導	授業の質の向上に加え、朝学習やゼミ、講習会など様々な学習指導の積み重ねやきめ細かな受験指導の効果があらわれ、国公立大学・大学校に200名合格者を出している。また、私立大学では983名の合格者を出した。	質の高い魅力的な授業を展開するとともに、きめ細かな進路指導をとおして、今年度は旧帝大の合格者数をさらに多く出すこと、また、一人ひとりの希望に合った進路実現を目指す。
生徒指導	頭髪・服装指導や交通安全指導の徹底により、全体的に落ち着いた生活を送っている。	歩行時や自転車走行時の交通ルールを遵守の徹底を図る。携帯電話やSNSなどを利用する際の注意点を学ばせる。
特別活動	部活動の加入率が増加し活性化してきている。全国大会レベルを維持する運動部に加え、関東大会出場を果たす部も増えつつある。また、文化部も校外での大会やコンテストに参加するほか、校内での発表の機会も増え活気がある。生徒会も活動の幅を広げ、活発化している。	学業と部活動の両立を目指す生徒を育成する。生徒会や委員会活動など生徒の自主的活動を活発にし、地域社会の模範となるよう自信と自覚を持たせる。

#### 4 中期的目標

1 本校を、学習意欲が高く活気にあふれた生徒の集団とする。
2 進学実績を向上させ、確固たる進学校を目指す。
3 落ち着いた環境の下で有意義な学校生活を送ることができるよう、生徒指導を徹底する。
4 部活動や各種コンクール等に積極的に参加させ、その参加率を高める。
5 学業と部活動をとおして心と身体のバランスのとれた人材を育成する。

#### 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
魅力的な授業を展開し生徒の学力を向上させるとともに、生徒が能動的・意欲的に学習する姿勢を涵養する。	各教員が研鑽し専門性を高めるとともに、教材研究を十分に行い、全コースで質の高い授業を展開する。
	教育ICT導入に向け、タブレット学習・アクティブラーニングを積極的に取り入れた新しい授業形態を模索する。
	授業アンケートの結果を指導に生かし、授業の改善・工夫に努める。
きめ細かい進路指導を実施する。 国公立・難関私立大学への多数の合格者を出せるよう努力する。	個別面談・LHR等をとおして生徒をよく観察・把握し、生徒の適性に応じたきめ細かな進路指導を行う。
	各種講演会や各種勉強会を実施し、進路指導に活用する。
	大学入試問題の傾向分析、模擬試験・定期試験の結果分析をし、日々の学習活動やゼミ活動に反映し学力の増進を図る。
生徒が落ち着いて学習でき、安心して学校生活を送れるような環境を整える努力をする。	中途退学や転学の防止を目指して努力する。
	通学路での交通安全指導を行い、公共の場でのマナーを身につけさせる。
	メディアリテラシーの重要性を十分に理解させ、SNS等におけるマナーの向上を喚起する。
	自転車事故等をなくすために、交通ルールの遵守を心がけさせる。
募集広報活動を充実させる。	本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。
特別活動の活性化。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学業に励むだけでなく、部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、充実した高校生活を送れるよう支援する。</li> <li>・清掃など奉仕活動を通して公共心を養うと共に、環境問題を考えるきっかけを与える。</li> <li>・生徒会活動や委員会活動を生徒が自主的に運営できるように働きかける。</li> <li>・日常の挨拶やさまざまな活動をとおして、教員・生徒ともに豊かなコミュニケーションが行われる雰囲気を作る。</li> </ul>